桜の聖母学院新聞

発行所
福島市野田町七十日11番1号
桜の聖母学院
高校 新聞部

おめでとう!震災後初の卒業生

3月1日晴れの卒業を迎える、彼岸過度高校の58回の卒業生。この学年が過ごした高校時代は、日本社会にとっても激動の年間だった。入学後間もなくに、新幹線プロジェクトの着工、生活の大変革が始まった。本格的な改修工事は、生徒は一応安全の為仮住まいとなった。また、多くの医学・新技術・開発を残した。そして同じ頃に発足した、本格的な政権交代。これは一応安全の為仮住まいとなった。また、多くの医学・新技術・開発を残した。と言う訳で、戦後の最悪期を迎えたこの年、そして迎えた3月一年、この学年を生徒達はどう過ごしたのだろうか。思い出深い3月11日に、人間の最悪の試練を迎えることとなる。思い出深いはずの、卒業式の日に、生徒の安全を考えたものの、原発事故による放射能汚染・震災の発生直前に、卒業式を終えたのだ。私たちはみんなその生徒たちに、海岸から離れた高台の地点に、緊急に二人の卒業式を行ったのである。また、卒業生の中に、「ラクビー女子」の未来を担う人がいたり、「ボランティア」の未来を担う人がいたりと、様々な卒業生がいたのである。

伊達幸子校長先生を囲む、高橋咲さん（左）と宍戸優香さん。

校歌

美しきわがまなびや
山紫にわのぼりて あふすのぞ
黄金なすわがやすらいに
黄金なすすのやすらいに
みすらはるはえて

紙面紹介

1面・桜の聖母学院の卒業生
・巨出試験合格の先輩に聞く
・仕事のセンター試験の現場

2面・大学受験記録大公開「東京大」
・「私の学生時代」聖母時代を

司法試験合格の関根未希先輩に聞く!

桜の聖母学院高校の卒業生として、おそらく初めての司法試験合格者となった、関根未希先輩。新聞部では、地元福島の司法修習中の関根先輩に忙しい中時間をつくっていただき、司法試験の難関さや、将来の司法修習後への メッセージを語っていただきました。この記事を読んで、関根先輩に続く法曹界を目指す後輩が、桜の聖母学院から誕生することを願います。

（桜の聖母学院・高橋咲・清水信乃・そのだ）

現在は司法修習生の立場にある、関根未希先輩。

新・司法試験のしくみ

わが国のあらゆる国家試験、また司法試験の中で、最難関とされて、でもおなじみの、裁判官・検察官・弁護士という三大職業の資格を得るためには、まずは、司法試験（ドラマなどでよくでてくる、弁護士の試験）を受けて、合格しなければならない。かつては、検察官はスパーエリート扱いで、裁判官は、昔の日本の「官僚」に匹敵するような、権威と、プライドがあったのだが、最近は、司法試験に合格する、2006年以降、法科大学院（ロースクール）を通ってきた新試験合格者の法曹資格者、と、昔の、司法試験合格者の法曹資格者、の、二つの資格が、同時に、法曹資格者として、認められる、という、中途半端な、状態になっている。

検察官は、弁護士、裁判官、の、三つの資格の、ひとつ、であり、国家公務員である。検察官は、法務省の、検察庁、に、所属する、公務員である。検察官は、法務大臣、検察官、検事、の、三段階の、ピラミッド、の、構造になっている。検察官は、裁判官、と、弁護士、の、両方、の、資格を、持っている。

一挙2校掲載！先輩たちの案内で行く大学キャンパス見学記

東京藝術大学

近代日本芸術教育の総本山

その歴史は、明治15（1882）年の東京藝術大学の前身である東京美術学校と、明治20（1887）年の東京音楽学校に、明治40（1907）年に設置された東京美術学校の二つの官立学校にまでさかのぼる。

音楽学部（今でも「音校」という）の出身者は、日本初の本格的コンサートホールを作ったり、日本初の楽譜を出版したり、日本初の音楽教師になったりと、日本の音楽界を引っ張ってきた。

美術学部（今でも「美校」という）の出身者は、日本初の美術学校を作ったり、日本初の美術教師になったりと、日本の美術界を引っ張ってきた。

その東京藝術大学の本郷キャンパスは、JR上野駅の公園口を出て、右に進んで、上野公園を抜けて、国立西洋美術館の前を通り、東京都美術館の前を通り、東京都美術館の前を通り、東京都